

Emacs

超高機能エディタ

文：乙部徹己

平成 16 年 6 月 9 日

この使い方では慣例に従って、[Ctrl]・[Shift]・[Alt]キーを押しながらの操作を C-・S-・M- と表す。たとえば C-x C-f と記した場合、[Ctrl] - [X] を押したあと [Ctrl] - [F] を押すことを意味する。[Alt] キーがない場合には代わりに [ESC] キーをいったん押してから次のキーを押す。たとえば MC-s のようなものは ESC を押してから C-s を押した方がわかりやすい。

起動法

ターミナルエミュレータでの起動

```
xemacs -nw [filename]
emacs -nw [filename]
mule -nw [filename]
```

X ウィンドウでの起動

```
xemacs [filename]
emacs [filename]
mule [filename]
```

マウスの操作

左ボタン	マウス位置へカーソル移動
中ボタン	ペースト
右ボタン	コピー
C- 中ボタン	領域を削除
C- 右ボタン	ウィンドウを縦に分割
S- 中ボタン	領域をコピー
S- 右ボタン	ペースト
CS- 右ボタン	他のウィンドウを破棄

コマンド中断

C-g	コマンドを中断する
-----	-----------

ファイル操作

C-x C-f	ファイルを開く
C-x C-v	別のファイルを開く
C-x i	カーソル位置にファイルを挿入する
C-x C-w	別名で保存 (名前を付けて保存)
C-x b <i>buffername</i>	新しいバッファを作成・移動
C-x C-b	バッファ一覧

編集操作

カーソル移動

C-f	右へ移動
C-b	左へ移動
C-p	上へ移動
C-n	下へ移動
M-f	一単語右へ移動
M-b	一単語左へ移動
C-a	行頭へ移動
C-e	行末へ移動
C-v	1 ページ順送り
M-v	1 ページ逆送り
M-<	ファイル先頭へ移動
M->	ファイル末尾へ移動

コマンドの繰り返し

M-n	この次のコマンドを <i>n</i> 回 (1 桁) 実行
C-u	次のコマンドを 4 回実行
C-u C-u	次のコマンドを 16 回実行
C-x u	アンドウ
C-x ESC ESC	リドゥ

カット・ペースト

キー設定によっては DEL でその文字が消え、BackSpace で直前の文字が消えることもある。

C-d	1 文字削除
DEL	前の文字を削除
M-d	単語をカット
M-DEL	前の単語をカット
C-k	行をカット
C-@	現在位置からマーク
C-w	マークされた領域をカット
M-w	マークされた領域をコピー
C-y	マークされた領域をペースト
M-y	カットしたものをペースト
C-x C-x	カーソル位置とマーク位置を入れ替え

文字操作

C-t	直前の文字と入れ替え
M-t	直前の単語と入れ替え
C-x C-t	直前の行と入れ替え
M-c	単語の先頭を大文字にする
M-u	単語を大文字にする
M-l	単語を小文字にする

矩形編集

C-x r k	矩形領域のカット
C-x r d	矩形領域の削除
C-x r y	矩形領域のペースト
C-x r c	矩形としてマークされた領域を消去
C-x r o	マーク領域に空白の矩形を挿入

スペルチェック

M-x \$	現在の単語のスペルチェック
M-x ispell-reg ion	領域をスペルチェック
M-x ispell-buf fer	バッファをスペルチェック

検索

通常の実験

C-s RET	順方向の実験
C-r RET	逆方向の実験
C-s RET C-w	単語順方向実験
C-r RET C-w	単語逆方向実験

インクリメンタルサーチ

文字を入力するたびに、それまで入力された文字列について検索を行う。

C-s	順方向のインクリメンタルサーチ
C-r	逆方向のインクリメンタルサーチ
RET	インクリメンタルサーチの終了

置換

M-%	対話的置換開始
SPACE または y	置換して次へ進む
DEL または n	置換せず次へ進む
.	現在見つかっているものを置換して終了
,	現在のものを置換して休止 (y または SPACE で次へ)
!	残りを一括置換
^	1 つ前の検索文字列に戻る
RET または q	置換を終了
C-r	繰り返し編集に入る
C-w	検索文字列を削除して繰り返し編集に入る
MC-c	繰り返し編集を終了して対話的置換を再開
C-]	繰り返し編集と置換を両方とも終了

正規表現検索

MC-s RET	順方向に正規表現検索
MC-r RET	逆方向に正規表現検索
MC-s	順方向にインクリメンタル正規表現検索
MC-r	逆方向にインクリメンタル正規表現検索

また、M-x query-replace-regexp とすると正規表現の対話的置換をする。

ウィンドウ・バッファ操作

バッファ

C-x b buffername	指定したバッファに移動
C-x C-b	バッファリスト一覧
C-x k buffername	指定したバッファを削除
M-x rename-buffer	バッファの名前を変更
C-x s	バッファを保存

バッファ一覧の操作

SPACE または n	次の行へ移動
p	前の行へ移動
d または k	削除するバッファをマーク
s	保存するバッファをマーク
x	マークしたコマンドを実行
DEL	前の行のマークをはずす
~	変更なしとマークする
%	読み込み専用状態を切り替え
1	バッファを画面全体に表示
2	現在のバッファと次のバッファを水平に並べる
f	バッファ一覧を現在行のバッファに切り替え
o	他のウィンドウに表示中の一覧を表示
m	ウィンドウに表示されるバッファをマーク
v	m でマークされたバッファを表示
q	バッファ一覧を終了

ウィンドウ操作

C-x 2	2つのウィンドウを上下に分割して作成
C-x o	他のウィンドウに移動
C-x 0	現在のウィンドウを削除
C-x 1	現在のウィンドウ以外をすべて削除
C-x ^	ウィンドウを縦幅を拡大
M-x shrink-window	ウィンドウの縦を縮小
MC-v	他のウィンドウをスクロール
C-x 4 f	もう1つのウィンドウにファイルを読み込む
C-x 4 0	バッファとウィンドウを削除する

フレーム操作

フレームは、Emacs 自身が動いている「ウィンドウ」のこと。

C-x 5 2	新しいフレームを作成
C-x 5 o	別のフレームに移動
C-x 5 0	現在のフレームを削除
C-x 5 f	新しいフレームないにファイルを読み込む
C-x 5 b	フレームを作成して別のバッファを表示

Dired モード

ファイルやディレクトリを操作する。

C-x d	Dired を起動する
C	コピーする
d	削除フラグをたてる
D	直ちに削除する
e または f	ファイルまたはディレクトリを読み込む
g	ディレクトリを再読み込み
G	グループ許可を変更
k	マークした行を表示しなくする
m	マークを付ける
n	次の行へ移動
o	別のウィンドウで表示し、移動
C-o	別のウィンドウで表示する
q	終了する
R	ファイル名を変更
u	マークをはずす
v	ファイルを表示する
x	削除フラグのついたファイルを削除
Z	ファイルを圧縮する
~	バックアップファイルに削除フラグ。(C-~ で解除)
#	自動保存ファイルに削除フラグ。(C-# で解除)
=	マークしたファイルと比較
!	ファイルにシェルコマンドを適用
+	ディレクトリを作成
>	次ディレクトリに移動
<	前ディレクトリに移動
s	表示順の変更

シェルモード

M-x shell	シェルモードに入る
C-c C-c	現在のジョブを中断
C-d	文字を削除
C-c C-d	EOF を送る
C-c C-u	行を削除する
C-c C-z	ジョブを停止する
M-p	直前のコマンドを表示する
M-n	あとで入力したコマンドを表示する
C-c C-o	最後のコマンドから出力をカットする
C-c C-e	出力の最後尾をウィンドウの最下行にあわせる

- 字下げ（インデント）。行頭で [Tab] を押すと字下げを自動的に判定する。
- 括弧の対応がわかるようになる。（対応する括弧に一時的にカーソルが移動）。

M-x c-mode	C モードを起動
CM-a	編集中の関数の先頭、または前の関数定義の先頭に移動
CM-e	編集中の関数の末尾、または次の関数定義の末尾に移動
CM-h	編集中の関数の最後にマークが設定されカーソルが関数の先頭に移動する。

Telnet モード

M-x telnet	Telnet モードを起動
C-d	文字を削除するか EOF を送る
C-c C-c	現在のジョブを中断
C-c C-q	引用された次のキャラクタを送る
C-c C-d	EOF を送る
C-c C-r	出力の最初の行をウィンドウの先頭に表示
C-c C-e	出力の最終行をウィンドウの最下行に表示
C-c C-o	最後のコマンドの出力をカット

Emacs, Mule, XEmacs に関しては膨大な書籍があるので、それらを参考にするとよい。Windows 用のものについては“Meadow”というソフトをインターネットで検索すればすぐに見つけることができる。

L^AT_EX モード

拡張子が .tex のファイルを読み込むか、M-x latex-mode とすると L^AT_EX モードに切り替わる。

M-x latex-mode	L ^A T _E X モードを起動
M-{	1 組の括弧 { } を挿入する
M-}	現在編集中の括弧 { } の後ろへ移動する
C-c C-e	¥begin{...} の後ろで実行すると対応する ¥end{...} を挿入する
C-c C-o	環境を挿入する

C モード

拡張子が .c のファイルを読み込むか、M-x c-mode とすると L^AT_EX モードに切り替わる。次のことが自動的に行われる。